

▼土木と市民社会をつなぐフォーラムから「土木学会委員会等の活動」 身近にある D&I を話そう

土木学会 D&I 委員会 委員長
佐々木 葉



■土木の D&I のひろがり

土木学会に D&I 委員会があるのをご存じですか？ 正式名称はダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会。2004 年にジェンダー問題検討特別小委員会として発足し、この名前になるまで 4 回変わっています。男女共同参画小委員会からダイバーシティ推進小委員会へ。「小」がとれて委員会になって、さらに「インクルージョン」が加わりました。「土木技術者女性の会」という任意の活動グループなどと並行しながら、土木のなかにひとつの流れを作ってきました。

いまでこそ D&I は珍しくないキーワードになりましたが、ここに至る道のりは平坦ではなかったと想像します。たくさんの汗と涙があつての今日です。そんな歴史に敬意をはらいつつ、ここ数年は委員会のみなさんと、こんなこと、あんなことやってみようかと、土木の D&I を広げています。

■D&I は私のなかにある

そのなかで昨年からはじめたラジオ感覚でできるオンライントーク番組「D&I カフェトーク」について、ご紹介します。お聞きになったことはありますか？ 隔週の金曜日の夕方 5 時から Zoom でお届けしています。委員会のウェブサイトに案内があるので、検索ください。ダイレクトに D&I への取り組みを語るというよりは、私の仕事、私のライフ、私の働き方、私の子育て、といったとても個人的なことを語っていただきます。ゲストとアンカーという仕立てではありますが、その境目は曖昧で、まさにカフェでおしゃべりしているように話題もあちこちへ揺れながら、いつもあつという間の 30 分。おかげさまでさまざまゲストにお越しいただいて昨年度に 20 回開催、2 ラウンド目に入りました。そのお話、対話のなかで見えてきたのは、D&I は一人ひとり、私のなかにある、ということです。それぞれの事情、その時々のタイミングのなかで、私が決めた小さなこと、大きなこと。その積み重ねは誰かの一言に背中を押され、制度や前例があつたなど、環境によるものではありませんが、やはり私のなかにある何かがそう決めている。多くの、それぞれ異なるお話をききながら、D&I は私の物語なんだな、と改めて思っています。

■対話はゆったりとした椅子で

カフェトークを始めるにあたって、SNS での発信にも必要なロゴやアイコンを考えました。ちなみに世の中の D&I はどんなグラフィックイメージを使っているのだろうと画像検索したところ、カラフルな丸や四角が並んでいるものが多く出てきました。これは日本の場合。英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語など多言語で検索すると、違いも見えて面白かったです。それはそれとして、色で多様性を表すのはちょっとつまらないな、ということで、さまざまな椅子をあしらうことにしました。私の本業のまちづくりにおいて多くの人に参加してもらう場のデザインには、いろいろな椅子を緩やかに並べることは重要。それも踏まえて、その人、場所、機会が表れる椅子に多様性を託しました。D&I カフェトークをリアルにやるとすれば、ゆったりとしたアンティークの椅子がいいな、と想像しています。

こんなふうに、何を話すかより、どんな感じで話すかという場の雰囲気だけを決めて、いろいろな人たちが自由に、身近な、自分のことを話し、聞くことが日常化すれば、D&I は自ずとついてくるのか、と思ったりもします。職場や家庭や学校にそういう雰囲気のある場所がふえてくるためのヒントや道筋も D&I 委員会では考えていこうかな、と思っています。

